



2021年 9月1日  
第19号

# JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



## イーハトーブ

9月1日号

9月1日は「防災の日」です。地域や企業、学校などで防災訓練や避難訓練が行われ、日常ではつい見過ごしてしまう防災の視点や危機意識を呼び戻す機会になると思います。1923年の同日、根府川駅構内では、進入してきた下り列車が地震動による土砂崩れに巻き込まれて海まで転落し、乗員・乗客と駅係員を含めて100名以上が犠牲になりました。

急峻で狭隘な地域間の輸送を担う鉄道路線では、自然災害のリスクが常に隣り合わせで存在します。東日本大震災において東北沿岸の鉄道が津波により被災しました。私自身も衝撃を受け、これまで、内房線・外房線・伊東線・紀勢本線といった、沿岸部の路線について現地を見てきました。海辺に山が迫り、駅間もそれなりに長いといった特徴が類似しています。地域や会社を超えて、良策を学び合う姿勢が必要だと思っています。

鉄道のハードのメンテナンスを担う仲間、通常の検査修繕に加えて、既存の設備を改良したり、設計にフィードバックして長い時間をかけて置き換えたりすることで安全を追求してきました。そしてハードとハードをつなぐ部分は、輸送や運転、営業の仲間が担うことで安全が保たれています。システム化も進んできましたが、自然災害に相対したとき、特に列車を止めてからは様々な状況判断と行動が求められます。津波であれば時間もありません。追加の安全措施や、避難誘導の要否、配慮が必要なお客さまの存在など、現地の初動対応を担うために、高い危険予知能力が必要と言えます。そのためには、危険箇所を実際に見て歩くなどの実践的な教育訓練と、実務における経験とイメージトレーニングの積み重ねが必要不可欠です。

私たちはこれからも鉄道という社会インフラのスペシャリストとして、職場で議論を重ね、安全第一の企業風土を創り出していきましょう。

(J・Y)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。